

早稲田大学大学院日本語教育研究科

博士論文概要

論文題目

機能文型に基づく相談の談話の構造分析

申請者

鈴木 香子

2007年9月

本研究は、日本語の会話・聴解教育に応用するために相談者が専門的知識を提供する回答者に相談したのを受けて、回答者が相談者の状況を正確に把握し、解決策や要因などを回答する相談の談話の「機能文型」に基づく「談話型」を解明するものである。

「談話型」とは、相談の談話の全体的構造の典型のことである。参加者の目的と内容上の相対的な大小のまとまりから区分される談話の成分としての「話段」を構成する、相談者と回答者の発話の機能文型を認定するために、全発話をザトラウスキー(1993)の分類の一部を改訂した全5類40種の発話機能に分類し、「要求」系7種、および「提供」系4種の発話の「機能文型」を提示し、相談の「談話型」を解明する。

本研究では、以下の3類5種の相談の談話資料を分析対象として用いる。

I. ラジオの相談番組, 全6資料

①医療相談【資料1】【資料2】【資料3】, 総発話数5,649発話のうち, 15件の「電話の医療相談の談話」4,080発話

②心理相談【資料4】【資料5】【資料6】, 総発話数5,779発話のうち, 9件の「電話の心理相談の談話」4,757発話

II. ③図書館レファレンスの図書館員と学生の相談の談話, 【資料7】【資料8】【資料9】, 総発話数1,002発話

III. 日本語教材の相談の会話文, ④初級レベルの5種6場面, 総発話数284発話, ⑤中級レベルの5種5場面, 総発話数334発話

Iに関しては、ラジオの放送1回分を「談話」として、談話の全体的構造を「大話段」, 「話段」, 「小話段」によって構造分析するが、相談の「談話型」の解明のために、主に相談者が参加する「電話相談の談話」を取り上げて考察する。

I～IIの自然談話と比較して問題点を明らかにし、IIIの日本語の初級・中級教材により、会話教育と聴解教育の指導方法を検討する。

1. 本研究の構成と概要

第1章 本研究の目的と課題

第1章では、以下2点の研究課題を設定した。

1) 日本語の中級レベル以降の会話および聴解教育において、「談話練習」などで、「談話の流れ」や「談話型」を扱う教科書はあるが、実際の日常の相談の談話において、どの

ような言語形式の発話をどのような目的で参加者各自が用いるのかを学習者に明示することが、会話の運用能力や聴解能力を高めるために有用なのではないか。

2) 日本語教育映像教材の中級編(1994:14)では、発話機能と言語形式の対応はなされていないが、対応関係を整理し、「機能文型」を提示することにより、談話の種類に応じた文型の提示ができるのではないか。

そして、以下4点の研究目的を挙げた。

1. 参加者の目的と発話機能による相談の談話の全体的構造の解明

拙稿(2002)(2003b)では、相談の談話をザトラウスキー(1993)による「発話機能」12類22種の分類した結果、ザトラウスキー(1993)の「発話機能」の③〈情報要求〉に約4割、⑥〈情報提供〉約1割という全体の約半数近くを占める発話が分類されたことから、この2種の発話機能を各7種に細分類した全5類40種の発話機能に全発話を分類し、相談の談話の全体的構造を支える「機能文型」を明らかにする。

2. 「要求」系と「提供」系の「機能文型」の提示

相談の談話は、相談者と回答者の情報のやりとりが主要部分を占めており、「発話機能」としては、以下に示す「要求」系7種と「提供」系7種が挙げられる。

【表1】本研究の「要求」系「提供」系の発話機能

Ⅲ. 要求	
1 確認要求	2 判定要求
3 選択要求	4 説明要求
5 単独行為要求	6 共同行為要求
7 言い直し要求	
Ⅳ. 提供	
1 事実報告	2 意見説明
3 感情表出	4 意志表明
5 選択情報提供	6 言い直し
7 応答	

「提供」系の発話機能7種のうち、Ⅲ-1〈事実報告〉Ⅲ-2〈意見説明〉Ⅲ-3〈感情表出〉Ⅲ-4〈意志表明〉の4種の機能文型を提示する。これら4種に多くの発話が含まれること、また、「要求」系と「提供」系の対応関係を全体的構造の中で捉えるためである。

佐久間(2006:2)は、「機能」を「言語の『意味』と『形式』が結びつくことで生じる言語的コミュニケーションを遂行する『働き』のことである」と定義づけ、「機能文型」を「コミュニケーションの実現を支えるための種々の役割を担う文を中心とした表現の類型(パターン)であり、文章・談話の構成要素となるもの」と定義づけている。

本研究の「機能」とは、発話機能の「機能」である。構成要素として、「談話」と「文」

の間に「話段」という中間的要素を設けて、日本語の相談の談話型を提示する。

3. 日本語の相談の談話型の解明

相談の「談話型」は、相談者が回答をうけて、すぐに納得するものと、うけた回答を確認してから終わるものなど、複数の展開パターンがある。本研究における相談の談話型は、話段と小話段の展開パターンを成立させる文を「機能文型」に基づいて提示する。

4. 日本語の会話教育と聴解教育への応用方法の提示

本研究では、初級文型の学習を終え、まとまりのある談話の運用を習得すべき中級学習者の会話教育と聴解教育に談話型を応用する方法を提示したい。

第2章 日本語の相談の談話に関する先行研究

第2章では、参加者が目的に向かって談話を遂行する勧誘、依頼、提案、相談の談話の先行研究を取り上げ、本研究の相談の談話との談話構造の相違を論じた。相談の談話に関する先行研究の能田(1996)および拙稿(2002)(2003b)は、相談の談話における「大話段」「話段」「小話段」という多重構造を認めつつも、その認定基準が曖昧なことが明らかになった。

また、「発話機能」の分類に関する先行研究を検討し、本研究における発話機能との相違点を挙げた。特に、国立国語研究所(1987b)以降、〈情報要求〉〈情報提供〉という機能が設定されているが、国立国語研究所(1960)の「表現意図」の分類では、「話しことばの文型」を提示するために、形式と意味による分類がなされている。本研究のⅢ-1〈確認要求〉、Ⅲ-2〈判定要求〉、Ⅲ-3〈選択要求〉、Ⅲ-4〈説明要求〉の4機能は、国立国語研究所(1960)の「③要求表現」の「③・1・1・1 確認要求の表現」、「③・1・1・2 判定要求の表現」、「③・1・2・1 選択要求の表現」、「③・1・2・2 説明要求の表現」の分類に基づくものである。

日本語の「話段」と「談話型」に関する先行研究では、「話段」および「談話の単位」の先行研究として、南((国立国語研究所 1971)(1972)(1981)(1983)(1987))の「会話のまとまり」と「談話の要素」、佐久間(1987)の「話段」、また、「勧誘の話段」「勧誘応答の話段」を認定したザトラウスキー(1993)の「話段」の研究を概観した。ザトラウスキー(1993)の勧誘の談話と、本研究の相談の談話では、参加者の目的が異なる点は共通するが、相談の談話では、「各話段」の下位要素として「小話段」を設けることにより、談話構造をより細かく捉えられる。

第3章「本研究における相談の談話の構造分析の方法」

3. 1「本研究における「談話」の定義」でそれぞれ以下の定義を述べた。

相談の「談話」－1人の相談者，1人の回答者（ラジオの場合は1人の司会者も加わる）が相談を始めて，続け，終える音声言語最大のまとまりである。

「大話段」－ラジオの放送1回分を「談話」とした場合の番組編成上の区分である。本研究のラジオの相談番組には，異なる参加者による「電話相談」があるが，本研究では，異なる相談者による相談を始め，続け，終えるまとまりがあることから，「電話相談の談話」とみなす。

「話段」－内容上のまとまりと参加者の目的，発話機能により区分される部分である。

「小話段」－「話段」の下位要素で，内容のまとまりと発話機能により区分される。

「発話」－実質的な発話は，佐久間編(1997)の「節」を基本に，区分される。

3. 4「本研究における『発話機能』の定義」で，発話機能の認定方法と定義を，3. 5「相談の談話の『機能文型』と『談話型』の定義と分析方法」で，「機能文型」と「談話型」の定義と本研究の発話機能「要求」系7種と「提供」系4種の機能文型の認定方法と種類を述べた。

第4章「ラジオの医療相談番組における相談の談話の構造」

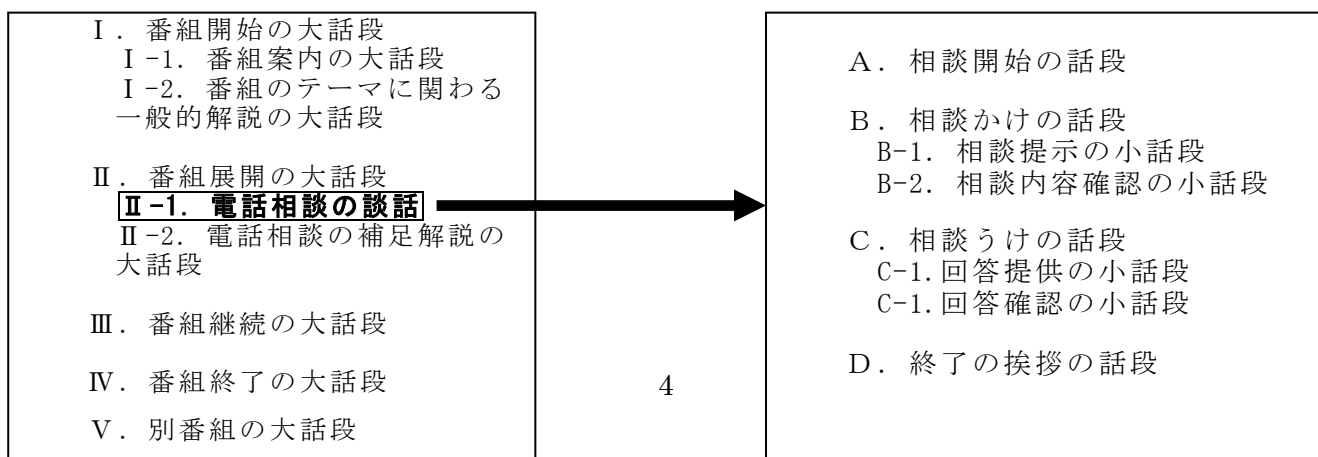
ラジオの医療相談番組3資料の構造分析をした。番組編成上から区分される「大話段」は，以下のI～Vの5類である。「II-1. 電話相談の談話」は，相談者の交代があること，始まり，続き，終えるというまとまりがあることから，「談話」とみなす。

第5章「ラジオの心理相談番組における相談の談話の構造」における3資料においても，医療相談番組と同じく，5類の大話段が認められることが明らかになった。

「電話相談の談話」の構造は，以下の4類6種の話段，小話段が認められた。

ラジオの相談番組における「談話」と「大話段」

相談の談話の構造



第6章 「図書館レファレンスにおける相談の談話の構造」

図書館レファレンスの談話を構造分析した結果、上記の4類6種の話段と小話段が認められたが、文献の検索方法や、コピーの取り寄せ依頼を1回の談話で複数行うため、「B. 相談かけの話段」の「B-1. 相談提示の小話段」が複数回反復されることが明らかになった。

第7章 「機能文型による相談の自然談話の談話型」

本研究の自然談話（第4章の医療相談の「電話相談の談話」、第5章の心理相談の「電話相談の談話」、第6章の図書館レファレンスの談話）の総括として、7.1「日本語の相談の談話の構造」では、相談の自然談話には、「C. 相談うけの話段」の「C-2. 回答確認の小話段」が、見られない場合があることがわかった（医療の「電話相談の談話」4件、心理の「電話相談の談話」1件、図書館レファレンスの談話1件）。これは、「C-1. 回答提供の小話段」で相談者が回答に納得し、「D. 相談終了の話段」で談話を終えるものである。

7.2「日本語の相談の談話における「要求」系と「提供」系の機能文型」では、相談の自然談話に見られた発話機能の要求系7種、提供系4種の「機能文型」を考察した。相談の自然談話の「要求」系7種は全62文型、「提供」系4種は全47文型、全体として109の「要求」系、「提供」系の「機能文型」が認められた。109機能文型のうち、医療相談の談話には79種、心理相談の談話には92種、図書館レファレンスの談話には45種の機能文型が認められた。

7.2.2「本研究の相談の談話構造における「要求」系と「提供」系の機能文型の相違点」では、相談の談話型の解明のために、相談の各話段、小話段の機能文型を考察したところ、特に相談の談話の中で主要な「B. 相談かけの話段」、「C. 相談うけの話段」の2話談では、機能文型において特徴が認められた。

第8章 「機能文型による日本語の会話教育の可能性」

8.1「日本語初級と中級教材における相談の談話の構造と機能文型」で、日本語初級・中級教材の相談場面の会話文を分析したところ、自然談話と同じく、4類6種の話段、小話段が認められた。このことから、8.2「相談の談話型の会話教育と聴解教育への応用」で、「談話型」の導入方法として、学習者が日常生活で、相談し、回答を受けることを目指し、「相談者」側の視点から構造を導入し、巨視的観点から談話を捉える方法を提案した。

2. 本研究の結論

結論 1 相談の談話構造，構成要素に関する結論

相談の談話には，4類6種の話段，小話段が認められた。

特に「B. 相談かけの話段」，「C. 相談うけの話段」は，相談の談話の主要な話段である。2話段は，それぞれ2小話段に分けられる。「B. 相談かけの話段」の「B-1. 相談提示の小話段」，「B-2. 相談内容確認の小話段」，「C. 相談うけの話段」の「C-1. 回答提供の小話段」は，自然談話，図書館レファレンス，日本語教材にも見られた。その後，「C-2. 回答確認の小話段」が後続するか否かが相談の談話型の種類を決めるものとなる。

結論 2 機能文型と談話型に関する結論

7章で3種の相談の自然談話に共通して見られた「要求」系，「提供」系の機能文型と実例を【表2】に挙げた。7. 2. 2「本研究の相談の談話構造における「要求」系と「提供」系の機能文型の相違点」では，相談の談話型の解明のために，相談の各話段，小話段の機能文型を考察した。特に相談の談話の中で主要な2話段「B. 相談かけの話段」，「C. 相談うけの話段」では，機能文型において以下の特徴が認められた。

1. 「B. 相談かけの話段」の「B-1. 相談提示の小話段」ではIV-2〈意見説明〉IV-2-3「Nハ，{V}ン{デス}。」で相談者が相談を提示している。

（例1）【資料8】の「B-1. 相談提示の小話段」

6相 あの一，論文探すときに一，
7回 はい。
8相 日本語の論文は，探せるんですけど一，
9回 はい。
10相 英語の論文がですね一，
11回 はい。
12相 あの一，国会図書館のほうでも，探せないんですが一。【資料8】

2. 「B-2. 相談内容確認の小話段」では，回答者が相談者に質問し，相談者が答えるため，3種の相談の自然談話に共通して見られたⅢ-1〈確認要求〉2種，Ⅲ-2〈判定要求〉3種，Ⅲ-3〈選択要求〉1種，Ⅲ-4〈説明要求〉2種は全て回答者によるものである。

「B-2. 相談内容確認の小話段」の「要求」系は，順不同で現れ，回答者は必ず複数の要求を相談者にしていた。これは，あとでの的確な回答をするために，必要な情報を引き出す必要があるからである。回答者の「要求」系に対して，相談者は，「提供」系で答えている。

(例2)【資料2-5】の「B-2. 相談内容確認の小話段」

- 1638 回 それで、痰の色はどうですか？ Ⅲ-4〈説明要求〉Ⅲ-4-3
 1639 相 あの、きれいなんです。 IV-2〈意見説明〉IV-2-3
 1640 回 あー、透明であると。 Ⅲ-1〈確認要求〉Ⅲ-1-2
 1641 相 はい。 Ⅲ-7-1〈応答〉
 1642 回 しかし、切れにくいと。 Ⅲ-1〈確認要求〉Ⅲ-1-2
 1643 相 はい。 Ⅲ-7-1〈応答〉
 1644 回 で、鼻は悪いですか？ Ⅲ-2〈判定要求〉Ⅲ-2-2
 1645 相 ええ、あの、鼻水も出ます。 IV-1〈事実報告〉IV-1-1

「B-2. 相談内容確認の小話段」の回答者の「要求」、相談者の「提供」の発話機能は、【図1】のような組み合わせになる。

【図1】「B-2. 相談内容確認の小話段」の「要求」系と「提供」系の発話機能

回答者の要求	⇒	相談者の提供
〈判定要求〉, 〈確認要求〉	⇒	〈応答〉, 〈事実報告〉, 〈意見説明〉 〈応答〉 + 〈事実報告〉, 〈応答〉 + 〈意見説明〉
〈説明要求〉	⇒	〈事実報告〉, 〈意見説明〉
〈選択要求〉	⇒	〈選択情報提供〉

3. 「C. 相談うけの話段」の「C-1. 回答提供の小話段」は、回答者が「提供」系で回答をしている。また、「要求」系のⅢ-5〈単独行為要求〉の機能文型が現れるのはこの小話段であり、回答者が回答の最後に今後の対処法を指示する。

(例3)【資料2-3】「C-1. 回答提供の小話段」

- 841 回 えー、腸の検査を受けたこ、受けたほうが良いと思いますしー、 IV-2〈意見説明〉
 842 相 あーそうですか。
 843 回 あの、そして、薬をちょっと、変えてみたほうが、 IV-2〈意見説明〉IV-2-9
 844 相 はい。
 845 回 いいと、私は思いますねー。 IV-2〈意見説明〉IV-2-9
 (略)
 849 回 今一の状態、ちょっと、つ、辛そうでかわいそうだし、 IV-2〈意見説明〉IV-2-2
 850 相 はい。
 851 回 なるべく早く先生に相談してみてください。 Ⅲ-5〈単独行為要求〉Ⅲ-5-2
 852 相 はい、わかりました。
 853 回 はい。

4. 「C-2. 回答確認の小話段」は「B-2. 相談内容確認の小話段」とは逆に、相談者が回答者に要求し、回答者が提供する。回答を確認するため、Ⅲ-1〈確認要求〉の機能文型が見られる。

(例4)【資料1-2】の「C-2. 回答確認の小話段」

- 546 相 先生と相談しながら、
 547 回 はい。
 548 相 それが、ワンクール一月10本のワンクールなのか、
 549 相 週に1回にするとかです//ね？
 550 回 はい。
 551 相 それを自分で掴めばいいわけですね？//これから。 Ⅲ-1〈確認要求〉Ⅲ-1-1
 552 回 そうなんです。

【表2】相談の自然談話に共通して見られた「要求」系と「提供」系の機能文型

		文型No.	文型	相談の自然談話の例	
要求系 62文型	Ⅲ-1〈確認要求〉 16文型	Ⅲ-1-1	1 NハV{ル/タ} (トイウ) ワケデスネ?	あの一、慢性間質性肺炎であると、あの一【言われた】わけですねー?	
		Ⅲ-1-2	2 Nガ {V/AIイ/An} トイウコトデスカ {。/?/ネ?}	【それ】が、【重要だ】ということですか。	
		Ⅲ-1-3	3 N1ハV {ル/タ} /AI/An/N2} ンデス {ネ?/ヨネ?}	だけど、実際には、【難しい】んですよ?	
		Ⅲ-1-4	4 N1 {ガ/ハ} {Anナ/AI/N2} デス {ネ?ヨネ?}	学校で、授業をボイコットしてるっていう話ですよ?	
		Ⅲ-1-6	6 N {ハ/ガ} V {マス/マシタ} ネ?/ヨネ?	【親子関係】が【こじれます】よね?	
		Ⅲ-1-9	9 (N1ハ) N2デス {カ/ネ}。	【2時間くらい】ですか。	
	自然談話に共通して見られた文型		6文型		
	Ⅲ-2〈判定要求〉 9文型	Ⅲ-2-1	1 NハV {マス/マシタ} カ?	【地下鉄の早稲田駅】は【わかり】ますか?	
		Ⅲ-2-2	2 N1ハ {N2/AI/An} デスカ。	で、【鼻】は【悪い】ですか?	
		Ⅲ-2-3	3 NハVンデスカ。・N1ハ {An/N2} ナノデショウカ。	【携帯】は、実際は【使ってる】んですか?	
	自然談話に共通して見られた文型		9文型		
	Ⅲ-3〈選択要求〉 1文型	Ⅲ-3-1	1 N1ハ {V/AI/An/N2} デスカ? (ソレトモ/アルイハ/φ) N3デスカ?	濃い物【お好き】ですか?【そうでもない】ですか。	
		自然談話に共通して見られた文型		1文型	
	Ⅲ-4〈説明要求〉 13文型	Ⅲ-4-2	2 Nハ {ナンカ/何ニ/イツカラ/イツ/ドウ/ドンナN2ヲ} V {マスカ?/マシタカ?/テマスカ?/テマシタカ?}	友達とか、先生とか、何か【言っ】てましたか?	
		Ⅲ-4-3	3 N {ハ/トイウ/ハ}、{ドウ/イツ/ナン/ドッチ/イツ/ドコ/ドウイウコト/ドンナコト/ドノクライ/何年生/何本/何時ゴロ/何号} {デスカ?/デス?/デシタカ?/ナンデショウ}。	それで、その一、【これ】は何号でしょうか。	
自然談話に共通して見られた文型		2文型			
Ⅲ-5〈単独行為要求〉 15文型	Ⅲ-5-1	1 Nヲ {Vテ/V} クダサイ (ネ)。	教育委員会へ【電話】を【かけ】てください。		
	Ⅲ-5-2	2 NヲVテミテクダサイ。	【いろーんな情報】【探し】てみてください。		
	Ⅲ-5-3	3 NヲVテミテクレマスカ?/Vテミテイタダケマスカ?	是非、【そんならうなこと】を【やっ】てみて頂けますか?		
	Ⅲ-5-5	5 NヲVテイタダイテ。/Vテイタダクト。/Vテイタダケルトカ。	それで、コピーのところに【チェック】を【し】ていただい/て、		
	Ⅲ-5-6	6 NヲVテイタダケレバ/テイタダキタイト (φ/ト思フ、思イマスケド)	【「General Search」、一般検索のほう】を【選ん】でいただければ。		
	Ⅲ-5-7	7 オ願イシマス。	【お願い】します。		
	自然談話に共通して見られた文型		6文型		
Ⅲ-6〈共同行為要求〉1文型		自然談話に共通して見られた文型 なし			
Ⅲ-7〈言い直し要求〉 1文型	Ⅲ-7-7	7 相手の発話の聞き取れた部分まで反復	しょ、将棋ですか。		
	自然談話に共通して見られた文型		1文型		
提供系 47文型	Ⅳ-1〈事実報告〉 7文型	Ⅳ-1-1	1 Nハ (ノ/ハ)、Vマス/Vマセン。Vテ、Vシ、/Vナイデス。	2年半前から、下痢が【止まり】ません。	
		Ⅳ-1-2	2 Nガアリマス。/アリマセン。	【腹痛】は、ありません。	
		Ⅳ-1-3	3 N/Vヲ、Vテイマス。	うーん、12時半ぐらいまでは、【起き】てます。	
		Ⅳ-1-4	4 Nハ (Vヨウ、Vコト、Nニ/ト、AI<、An) ニナリマス。/ナリマシタ。	で、ファックスで【取り寄せ】になります。	
		Ⅳ-1-6	6 Nハ、Vルコトガデキマス。/デキマセン。/Vラレマス。/Vラレマセン。/動詞の可能形	あの一、一人では【寝】られません。	
		自然談話に共通して見られた文型		5文型	
	Ⅳ-2〈意見説明〉 27文型	Ⅳ-2-1	1 N1ハ、N2デス。	うーんとですね、【戸山キャンパ、戸山図書館、3/8号館の1】ですよ。	
		Ⅳ-2-2	2 Nハ、{AI/An/Vナイ} {デス/デスネー。デシタネー。/デスヨネー。}	あっ、【妹】は【細い】です。	
		Ⅳ-2-3	3 Nハ、{Vル/Vタ/AI/An/N} {マス/デス} {。/ネ。/テスネ。}	【食欲】はとて【旺盛な】んです。	
		Ⅳ-2-4	4 Nハ、{V/AI/An/N} {ヨウ/ラシイ/ミタイ/ソウ} テス。	ガスもなんか【溜まりやすい】みたい。	
		Ⅳ-2-5	5 Nハ、{V/AI/An/N} カモシレマセン {。/ネー。}	そうしますと、今のお薬が、少し【強すぎる】のかもかもしれませんね。	
		Ⅳ-2-6	6 Nハ、{V/AI/An/N} トイウコト {デショウ (ネ) /デスネ。}	今の状態をとりあえず、完全に【治してしまっ】ということでしょうね。	
		Ⅳ-2-8	8 Nハ、{V/AI/An/Nガ} ト思 {イマス。/ウンデス。/テルンデスヨー。/ツテ。}	あー、【それ】はちょっと量が【少ない】と思いますね。	
		Ⅳ-2-10	10 Nハ、Vテ {シマイマス。/シマウンデス。/キチャイマス。/テキチャウ (ンデス)。}	すごーい【しんどくなっ】てしまったんですよ。	
		Ⅳ-2-11	11 V {マシタ。/マセン。/マスネ。}	はい、わかりました。	
Ⅳ-2-13		13 Nハ、V1 {カラ、タメニ、ノテ} (V2)。	夜、こう、【友達 (笑い) から引き離しに行くの】は、【父親です】ので。		
Ⅳ-2-14		14 Nハ、V1 { (ン) ケド/ガ/ノニ、} (V2)。	あの一、今までは、そういうこと【なかった】のに、なんか、夏休みを境に、なんか。		
自然談話に共通して見られた文型		11文型			
Ⅳ-3〈感情表出〉 4文型		Ⅳ-3-1	1 N {ガ/テ/モ} AI/Anデス。N1ガN2デス。	それから、散歩もとっても大事ですが一、何かやっぱり【気を紛らわすこと】も、とても大事だと思えますよ?	
		自然談話に共通して見られた文型		1文型	
Ⅳ-4〈意志表明〉 9文型		自然談話に共通して見られた文型 なし			

以上のように同じ機能文型を違う参加者が用いていたたり、特定の小話段にしか出てこない機能文型が見られたりすることから、談話の全体的構造の中で文型を捉えると、誰がどのような目的で、どのような文型を用いているかということが見えてくる。

「7. 3 日本語の相談の談話型」では、本研究の相談の談話の展開パターンとして、以下の4パターンを挙げた。

【図2】日本語の相談の談話における「話段」と「小話段」の展開パターン

パターン1			パターン2			パターン3			パターン4		
1	A. 相談開始の話段		1	A. 相談開始の話段		1	A. 相談開始の話段		1	A. 相談開始の話段	
2	B. 相談かけの話段	2-1	B-1. 相談提示の小話段	2	B. 相談かけの話段	2-1	B-1. 相談提示の小話段	2	B. 相談かけの話段	2-1	B-1. 相談提示の小話段
		2-2	B-2. 相談内容確認の小話段			2-2	B-2. 相談内容確認の小話段			2-2	B-2. 相談内容確認の小話段
3	C. 相談うけの話段	3-1	C-1. 回答提供の小話段	3	C. 相談うけの話段	3-1	C-1. 回答提供の小話段	3	C. 相談うけの話段	3-1	C-1. 回答提供の小話段
4	D. 相談終了の話段			3-2		C-2. 回答確認の小話段	3-2	C-2. 回答確認の小話段		4	B. 相談かけの話段
				4	D. 相談終了の話段	3-3	C-1. 回答提供の小話段	5	C. 相談うけの話段	5-1	C-1. 回答提供の小話段
					4	D. 相談終了の話段		6	D. 相談終了の話段		

[パターン1]は、4パターンの中で、最も単純な展開である。「C-1. 回答提供の小話段」で、相談者が「わかりました。」等で、回答に納得したことを示し、「D. 相談終了の話段」へと展開する。[パターン2]は、「C. 相談うけの話段」の「C-1. 回答提供の小話段」の後、「C-2. 回答確認の小話段」へと進むもので、相談者が回答を確認し、納得して終了するものである。

[パターン3]は、パターン2と同じく、「C. 相談うけの話段」の「C-1. 回答提供の小話段」の後、「C-2. 回答確認の小話段」へと進むが、相談者が「C-1. 回答提供の小話段」で回答に納得せず、さらに別の回答を求めるものである。

[パターン4]は、「C. 相談うけの話段」の「C-1. 回答提供の小話段」の後、「B-2. 相談内容確認の小話段」へと進むものである。回答者が的確に回答するために、前の「B-2. 相談内容確認の小話段」で聞き出せなかったことや、確認したいことを聞くものである。

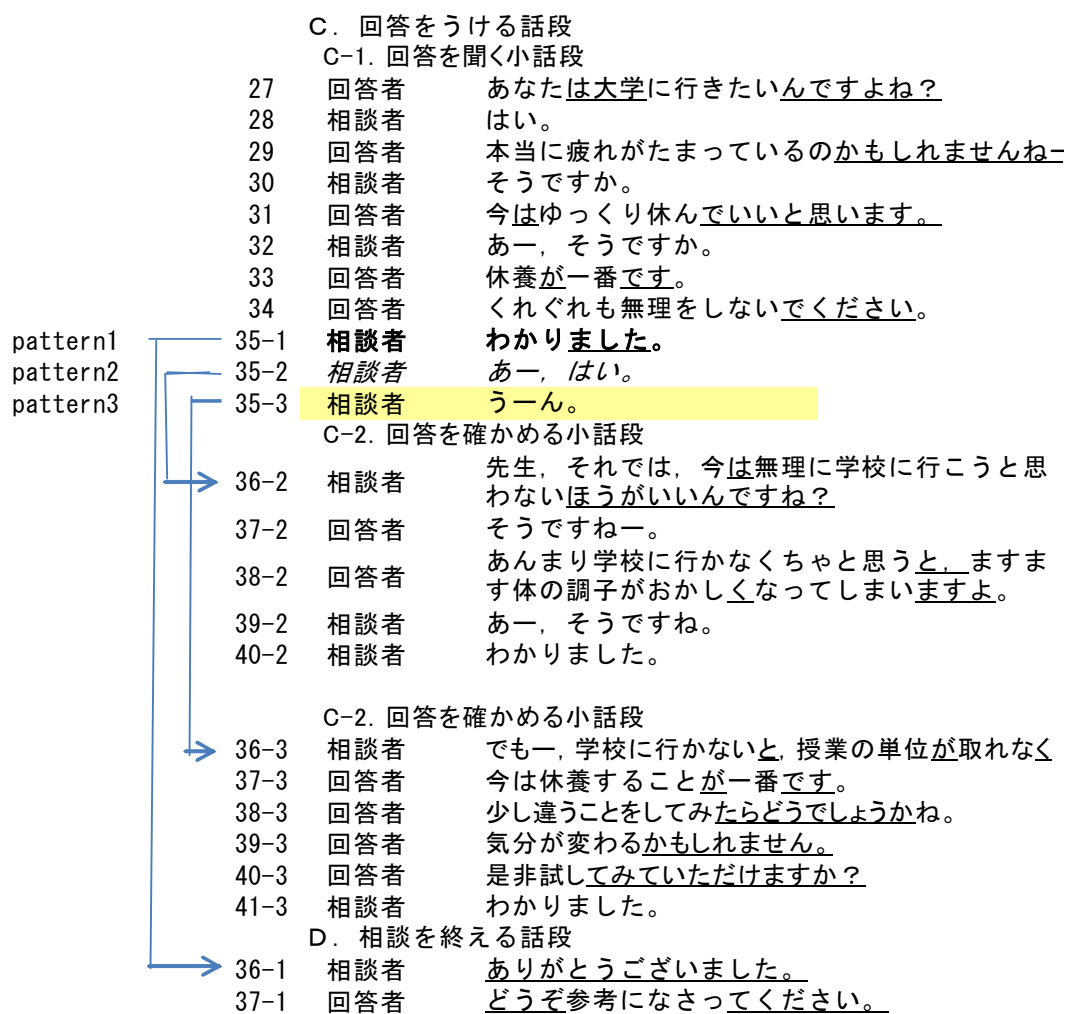
結論3 会話教育、聴解教育への応用方法に関する結論

「談話型」の導入には、談話の展開方法の明示が必要になる。【図2】に挙げた4パタ

ーンの中で、初級学習者には、回答を得て相談の談話を終えるパターン1と、回答を得たあと回答者に確認するパターン2、中級学習者には、パターン2と回答者の回答に納得できなかった場合、もう一度回答を求めるパターン3、上級学習者には、回答者が回答をする中で、もう一度相談内容に関する質問をするパターン4およびすべての展開パターンの相談の談話を運用、聴解できるようにするのが適当なのではないか述べた。

本研究では、初級文型を習得し、まとまりのある会話を表現し、聴解することを習得する必要のある中級学習者に向けた機能文型に基づく談話型の導入方法を提案した。

【図3】相談の談話における〔パターン1〕～〔パターン〕3の展開



8. 1で分析した中級教材の医師と患者の談話、電話教育相談の談話をもとに、〔パターン1〕の復習、〔パターン2〕と〔パターン3〕を導入するために、典型的に見られる文型とともに、医療相談と心理相談の会話例を作成した（【図3】参照）。特に〔パターン1〕～〔パターン3〕の分岐点となるのは、「C-1. 回答を聞く小話段」の終了部である。回答に納得する場合の「わかりました。」、もう一度回答を確認したい場合の「あー、そうですか。」、

回答に納得できず、再度回答を求める場合の「うーん。」という反応の違いにより、どのように次に展開するかを予測させることも可能であろう。

どんな文型を誰が用いて、最低どのくらいの長さの文によって小話段、話段が作られるのかを意識させると、話段、小話段の機能やそれらを支える文型を「談話を構築するためのどの段階で誰が用いる文型か」という位置づけで理解することができると思われる。

3. 今後の課題と本研究の意義

本研究は、「発話機能」の「要求」系と「提供」系の文型を中心にした分析したため、今後、接続表現（〈談話表示〉）、あいづち（〈注目表示〉）、呼びかけやフィルター（〈注目要求〉）との組み合わせによる機能文型を早急に検討する必要がある。

また、談話における「発話」と文型における「文」の関係については、本研究の数量的分析の際にも生じる問題点であるため、今後深く考察するべきところである。

佐久間(2006)の「機能文型」の捉え方、本研究の「要求」系と「提供」系の機能文型との関連に関しても、今後さらに多くの資料を分析することによって考察していきたい。また、本研究の機能文型の配列を行い、学習者のレベルに合わせた相談の談話を提示したい。

本研究の意義として、本研究では、相談の談話のみを考察対象としたが、参加者がある目的に向かって談話を遂行する依頼、勧誘、提案の談話においても、本研究の分析方法に基づいた談話型を示すことで、会話教育、聴解教育に役立てることができると考えられる。

今後相談の談話資料を収集し、機能文型に基づく談話型の他のパターンの可能性を探るとともに、他の種類の談話における談話型の研究、教育への応用方法の考察を深めたい。

【主要参考文献】

- 国立国語研究所 (1960) 『話しことばの文型(1)―対話資料による研究―』 国立国語研究所報告 18
————— (1987) 『日本語教育映画基礎編 総合文型表』
————— (1994) 『日本語教育映像教材 中級編 関連教材 伝えあうことば 4機能一覧表』
佐久間まゆみ (2003) 「第5章 文章・談話における『段』の統括機能」 北原保雄監修、佐久間ま
ゆみ編 『朝倉日本語講座7 文章・談話』 朝倉書店
—————編(2006) 『「日本語機能文型」教材開発のための基礎的研究 早稲田大学日本語研究
教育センター 2005年度重点研究 研究成果報告書』 早稲田大学日本語研究教育センター
鈴木香子(2002) 「ラジオの医療相談の談話の構造分析」 『早稲田大学日本語教育研究』 1 早稲田
大学大学院日本語教育研究科
—————(2003b) 「ラジオの心理相談の談話の構造分析」 『早稲田大学日本語教育研究』 3 早稲田
大学大学院日本語教育研究科
ポリリー・ザトラウスキー(1993) 『日本語の談話の構造分析―勧誘のストラテジーの考察』 くらし
お出版